

視覚障がい者の星に

野々山美恵子さん（68歳）・茂さん（71歳）

町には、障がいを持ちながらも、スポーツなどに打ち込み活躍している人がいます。傍本在住の野々山美恵子さんもその一人で、10月に開催された全国障害者スポーツ大会において、水泳競技背泳ぎ25m（視力0.0.01）の部で優勝しました。

今回は、野々山美恵子さんと夫の茂さんに話を伺い、優勝したときの思い出や視覚障がいとの向き合い方について話していただきました。

悲しみを乗り越えて

美恵子さんは、22歳で茂さんと結婚。32歳のとき、夜盲や視野狭窄、視力低下などの症状が現れる網膜色素変性症と診断されました。

「当時の医学では治す方法がなく、いすれ失明すると告知されました。これからどうしよう、皆に迷惑を掛けたい、と、といった気持ちが頭を

巡りました」と美恵子さんは辛かった過去を話してくれました。

そんな美恵子さんの心を支えたのは、夫の茂さん（と子ども）でした。

「障がいのことは、結婚前から聞いていましたから、心構えはできていました」と話す茂さんは、穏やかでも力強さがありました。

美恵子さんの視力は、現在、わずかな光を感じる程度ですが、美恵子さんは外出に前向きです。年に数回の旅行を、夫婦共通の楽しみとしています。

「二人で一緒に時を過ごすということ、大切にしたいですね」と茂さんは笑顔を見せていました。

全力を尽くす妻、見守り支える夫

美恵子さんが水泳を始めたのは5年前で、全国大会の選考会に背泳ぎ部門で出場したのは3年前です。

毎年5秒ずつタイムを縮めたことを評価され、昨年初めて代表選手に選ばれました。

「本番は、精一杯真っ直ぐ泳ぐことだけを考えていました」と美恵子さんは、当時の心境を語りました。

茂さんは「無事泳ぎ切れることを

願って、応援していました」と話します。

心配しながらも、美恵子さんを信じ、挑戦を見守っていました。

希望の星になる

「私はいろいろなことに挑戦してきました。活動を通じて、視覚障がい者の挑戦する気持ちを芽生えさせたい」と美恵子さんは前を向きます。

夫婦は、視覚障がい者とガイドヘルプボランティアが交流できる「ゆゆう」という町内の団体に所属し、毎月第3月曜日の午後に行われる茶話会などに参加しています。

「視覚障がいを持つ人は外出に抵抗がある人も多いと思いますが、支える人が『ゆゆう』にはいます。勇気を出して、外に出てきてくれることを願っています」と美恵子さんの言葉には熱が入っていました。

視覚障がい者を奮い立たせる希望の星になれるよう、夫婦二人で、これからも手を取り合って挑戦を続けていきます。

ゆゆう ☎0561(39)10508



No. 432 育てています!

いつも元気いっぱいなりおちゃんとニコニコ笑顔のさらちゃん☆
 まだまだヤキモチやきもあるけど、一緒にすすく大きくってね!
 2人の笑顔が大好きだよ♡



栗本 真也さん・美里さんの
 長女、次女（北山台）